



前小だより

ひたちなか市立前渡小学校
令和4年度学校だより
No.13 2月号
令和5年2月1日(水)

今を変えれば 未来が変わる

校歌 歌い隊!!

みんなにできるようになってほしいこと

今の学年のうちに確実にできるようになってほしいことの一つに、「校歌を歌えるようになること」があります。猛威を振るっている感染症のために、大きな声で歌うことが制限されてまもなく丸3年になります。でも、ここは学校です。やはり前渡小に通っているからには、校歌を覚えて卒業してほしいと強く思っています。先生たちにはここ数カ月何度か呼びかけてきたので、意識して何とか歌えるように工夫してくれているところです。

…とそんな中、職員室まで校歌を聴いてくださいと歌いに来てくれる子たちが現れはじめました。校歌を3番まで聴くのは1月30日が初めてです。とても貴重な時間でした。

時間はかかっても、まずはみんな一人ひとりが校歌を最後まで覚えて、そしていつの日にか八百人の大合唱を聴ける日が来てほしいものです。

6年生のみなさん、今年の卒業式、マスク越しではあっても、全員での校歌斉唱を楽しみにしています。

校歌を歌い終えての記念撮影



学校の様子から - 蒼鷺

1月20日(金)、朝8時過ぎのことです。5年生が気づきました。職員室前の池の縁(ふち)に大きな鳥が仁王立ちでたっていました。とても立派な鳥 - 蒼鷺(アオサギ)です。なぜここにいるのか、その目的は鯉ではないでしょうか。視線を水中に落とし、何やら思案しているようです。しかしながら、どうしたらものにできるのか名案は浮かばないようです。人の気配を感じると、そっと抜き足差し足しでその場から少しだけ離れますが、身の安全を確認するとまた戻ってくる素振りを見せてくれました。池の鯉も野鳥も、心を和ませてくれる生き物ですが、鯉が食べられてしまうのは避けたいし、でも、蒼鷺にはできるだけ多くその姿を見せてほしいし、といった思いが錯綜します。2月に実施予定の野鳥観察の際には、蒼鷺にもその姿を、6年生の前に見せてほしいです。



第70回 勝田全国マラソン開催

記念すべき第70回勝田全国マラソン大会が、令和2年の実施以来3年ぶりに開催されました。直前の一週間のうちに2度も雪が降ったので、当日の天気はどうだろうと思うところもありましたが、好天に恵まれました。それにしてもとても迫力がありました。実に47都道府県の内42の地域から約一万五千人ものランナーが参加したとのことで、当日は地響きとも言えるような足音が聞こえました。

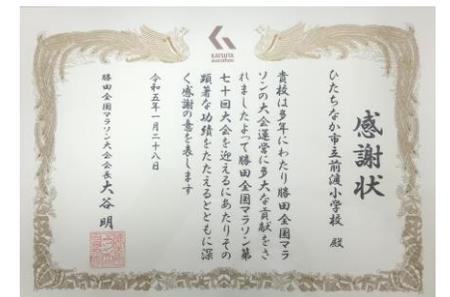
さて、勝田マラソンが前渡小に何の関係があるのだろうと思われる方もいるかと思いますが、実は前日の1月28日に大会の開会式があり、そこに呼ばれて、感謝状をいただくという名誉ある機会に恵まれました。その理由は、これまでに本校吹奏楽部が、長年にわたり沿道で演奏をして大会の応援をしてきたことで表彰につながったからです。それにしても、今回にしてもホテルの森にしても、これまでに本校に関わった児童、先生方、保護者、そして、地域の皆様など多くの方々のおかげで表彰に至り、ただただ感謝申し上げる次第です。

今、このような機会に恵まれて思うことは、現在、自分たちのしていることが伝統となり、受け継がれて一つの文化となり、先の誰かが表彰されるような、そんなこともできたらということです。前渡、馬渡、そしてひたちなか市・・・と、地域とともにある学校として、この先何か未来の人たちに託して、貢献できることはないでしょうか。

『君よ、勝田の風になれ』

こんなすてきな題名の歌が勝田マラソンにはあります。

12月には本校でも持久走大会を開催しましたが、将来、本校の卒業生が誰かしらこの大地を走る日が来るかもしれません。





前小(裏)通信

生活の柱 : 時間と空間それから仲間、三つの『間(あいだ)』を大切に

Key Word : 間が大事 笑顔さわやか ワクワクと 宝は仲間 理想に向かって



2年生

生活科の自分発見の授業です。自分が生まれてからこれまでの成長を振りかえって、アルバムの作成をしています。この日のために家から持ってきた写真を見つめながら、その当時のことを思い出して書きつづっています。自分にしか分からない記憶をたどって短い人生を立ち止まって考える、とても良い機会です。

大きくなって読み返す日が来るといいですね。



3年生

川崎先生を講師としてお招きし、干し芋作りを行いました。当日は、学年委員の保護者の皆様にもお手伝いいただき、蒸かしたばかりの甘いサツマイモの香りに包まれながら、楽しく活動できました。全体の流れについて説明を聞いたあと、竹のヘラで皮をむき、特別な器具を使ってサツマイモをスライス状にします。ちなみにこの日の様子は、近々市報にも掲載される予定です。



4年生

清掃の時間の様子です。前渡小では給食、昼休み、そして掃除の順番でお昼時の時間は流れます。昇降口では絵に描いたような上品な様子で、一人ひとりの下駄箱の土や砂を丁寧にはらっています。後輩の1・2・3年生のお手本になるとてもすばらしい姿です。この写真を見ただけでも、来年度は黙働での清掃もできそうな気がしてきました。



5年生

学年委員の皆様がボランティアとして家庭科の授業に参加してくださいました。今ランチョンマットを製作していて、ミシンやアイロンを使うのは初めてです。縫うときに布に手を添えてくださったり、アイロンでやけどをしないように見守ってくださいたりと助けていただきました。おかげさまで、安全にランチョンマットづくりに取り組むことができました。本当にありがとうございました。



1年生

こちらは一年生、生活科の「ふゆとなかよし」の学習で、紙コップやストローを使って風車を作りました。風が吹くと勢よく回りました。さらに風に向かって走って、たくさん風車を回していました。誰も彼も満面の笑みを浮かべていて、本当に嬉しそうです。ただ走ることをとっても、競争なのか、それとも無邪気に走るのかで随分と表情も違うように感じます。多分、作るのには手間がかかり、難しさを感じ

毎年の正月の恒例行事、書き初め大会の様子です。全学年ともそれぞれに時間をとって臨みました。こちらは6年生、1月10日のことです。6年生の課題は「将来の夢」です。『しん』と静まり返った体育館で、集中して書き初めに取り組むことができ、新年を始めることができました。書写 - 毛筆の授業は、小学校では3年生が最初ですが、3・4・5・6年生と習ってきて、卒業前最後の書き初めです。普段の生活ではまずしない両膝をついてのことでしたが、流石は最高学年、落ち着いている様子が伝わってきました。日本の伝統文化、大人になっての書き初めは、まず中々しないことのようにも思われますが、子どもの頃に経験した記憶は、これから先もずっと残ってほしいところです。



6年生

じた子もいたのではないかと思います。自分で作り上げたもので遊ぶ喜びは、ものづくりの楽しさに気づききっかけになったのではないのでしょうか。